

小地域における住基人口と国調人口

Registration population and Census population in Japan

貴志匡博（国立社会保障・人口問題研究所）

KISHI Masahiro (National institute of population and social security)

kishi-masahiro@ipss.go.jp

地域人口の人口減少の進行と2014年の「地方創生」が契機となり、地方自治体も地域人口に対する分析が求められるようになった。本研究は、地方自治体にとって国勢調査人口（以下、「国調人口」）よりも身近な存在である住民基本台帳に基づく人口（以下、「住基人口」）と「国調人口」の差異を小地域単位も含めて検討し、「住基人口」間の人口移動傾向を常住人口の将来推計に用いる際の課題を整理、検討する。

「住基人口」は全市区町村の住民票データを取りまとめる形で、総務省自治行政局が「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（以下、住民人口）」として公表しているが、自治体によっては自治体が独自により細かな小地域単位や、独自の集計日で公表しているものがある。ただし、総務省自治行政局の集計方法とは細かな点で異なることもあると考えられるので、比較の際には若干の注意が必要であるが、市区等村内の小地域単位の人口を国勢調査実施年以外でも観察できるという大きな意義がある。具体的には、国勢調査とは異なる人口統計ではあるが、直近の人口数や人口の変化を把握できる可能性がある。そこで、本研究は、「住基人口」を充実した形¹で公開している千葉県柏市を対象として、「住基人口」間の人口移動傾向を常住人口の将来推計に用いる際の課題を整理、検討する。

まず、柏市全体の「住基人口」と「国調人口」の差異についてまとめたものが次の表1である。「国調人口」と「住基人口」の日本人の差率に注目すると、2005年と2010年では大きな差はないが、外国人を含む2015年の総人口の差率は、2005年、2010年の日本人の差率に比べ傾向が異なっている。次に、柏市全体の「国調人口」と「住基人口」の年齢別の差率を比較する（図2、図3）。日本人の2005年、2010年の年齢別の差率は、人口移動が活発な若年層を中心に「住基人口」が「国調人口」よりも多い傾向となっているが、2015年の総人口の差率は住基人口が国調人口よりも少なくなっている。日本人人口の差率と総人口の差率は、外国人と国籍・年齢不詳按分の影響により全く異なっている。このことから、人口移動傾向として、2時点を用いて変化率を計算する際には、人口の属性を合わせるなど注意が必要である。なお、高年齢層では「住基人口」が「国調人口」よりも少なく差率が大きくなっているが、これは当該年齢の人口数が少ないことが影響している。さらに、差率の分布が似た2005年、2010年の両統計を用いて、2005年→2010年の「住基人口」間、「国調人口」間のコーホート変化率を観察したものが、図4である。人口移動傾向の差として、

¹ 柏市は1986年以降の毎年4月1日、10月1日時点の「住基人口」を、町丁字、男女、年齢各歳別に公開している。2012年9月以前は日本人のみが集計対象であり、以降は外国人を含む総人口が集計対象となっている。柏市 住民基本台帳人口（大字町丁・年齢（各歳）・男女別）
(<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/020800/p034465.html>)

人口移動が活発な年齢を中心にその差が大きいといえる。また、40歳代前半から40歳代後半にかけてその差が縮小しているようにみえる。

以上の市全体での「住基人口」と「国調人口」の比較を整理する。まず、表1からわかるように、「住基人口」において、2010年は日本人人口の集計であり、2015年は外国人を含む総人口である。そのため、例えば、直接に2010年→2015年の人口移動傾向を計算できない。また、2015年の総務省による「参考表2 年齢・国籍不詳をあん分した人口」の日本人人口は、国勢調査の日本人人口よりも多くなっている。この点は、年齢・国籍不詳をどのように扱うのか悩ましい問題である。2005年以前の国勢調査では公式的な年齢不詳按分人口はないので、既知の年齢別人口に基づく比例按分や按分を行わない形での利用が考えられる。

さらに、町丁・字等の小地域単位において、「政府統計の窓口(e-Stat)」では年齢別人口は総人口のみしか得られない。

こうした限界と問題を踏まえ、柏市の小地域単位での「住基人口」と「国調人口」の差異と課題を検討する。

高年齢層の差率や人口移動傾向の差異も気にはなるが、当日は人口移動が活発な若年層に注目して、結果を示したい。

なお、2020年の国勢調査結果が公表されれば、外国人を含む総人口を対象とした人口が、「住基人口」と小地域も含めて2015年、2020年の2時点で揃うことになる。2020年の小地域の国勢調査結果が公表され次第、追加の分析も行いたい。

表1: 「住基人口」と「国調人口」の差異

年次	属性	国調人口		住基人口		差率 (%)	
		男	女	男	女	男	女
2005年	日本人	188,142	188,726	189,261	187,786	0.59	-0.50
2010年	日本人	197,089	198,599	197,992	197,927	0.46	-0.34
2015年	日本人	199,307	201,887	-	-	-	-
2015年	按分日本人*	203,505	205,063	-	-	-	-
2015年	総人口	205,971	207,983	203,280	205,507	-1.31	-1.19

「住基人口」は柏市住民基本台帳人口の各年10月1日による。
 差率は「国調人口」を100として、 $(「住基人口」 - 「国調人口」) \div 「国調人口」$ で計算した割合。
 *按分日本人は「年齢・国籍不詳をあん分した人口」による。

図2: 日本人「国調人口」と「住基人口」の男女年齢別の差率 (%) : 2005年

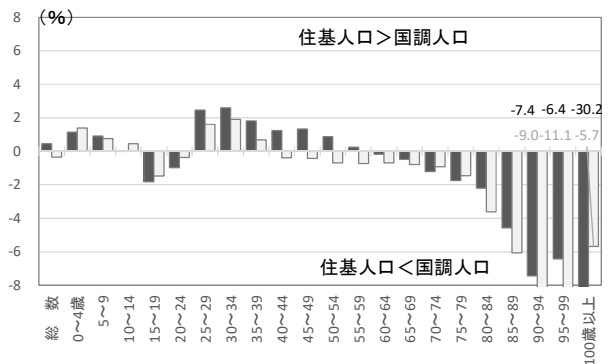


図3: 総人口「国調人口」と「住基人口」の男女年齢別の差率 (%) : 2015年

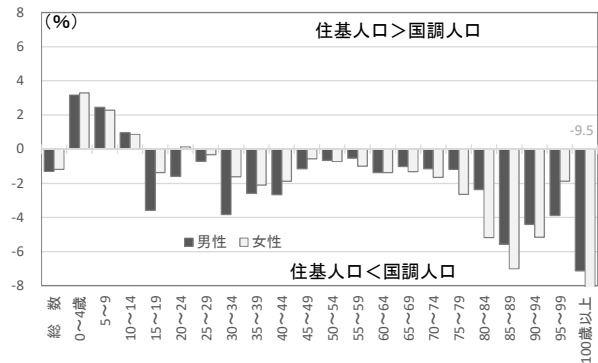


図4: 「国調人口」間、「住基人口」間で観測される日本人のコーホート変化率: 2005→2010年

